

⑫ 公開特許公報(A) 平1-213458

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)8月28日

D 06 B 13/00

6557-4L

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 捺染部の超音波除去方法

⑰ 特 願 昭63-38403

⑱ 出 願 昭63(1988)2月19日

⑲ 発 明 者 日 比 政 孝 愛知県名古屋市守山区森孝1丁目1622番地 株式会社橘一内

⑳ 出 願 人 株 式 会 社 橘 一 愛知県名古屋市守山区森孝1丁目1622番地

㉑ 代 理 人 弁 理 士 飯 田 堅 太 郎 外 1 名

明 細 書

1. 発明の名称

捺染部の超音波除去方法

2. 特許請求の範囲

真空ポンプに連通した吸気管の開口部に被加工物を載置する多孔質部材からなる支承板を装設し

前記被加工物の捺染対象部を前記支承板上に載置し、

前記捺染対象部に超音波霧化装置により捺染液を噴霧しながら超音波を照射付与して、上記捺染対象部を溶解、分離し、

溶解、分離した前記捺染対象部の染料または顔料と前記捺染液とからなる廃液を前記支承板を介して真空吸引して排出し、

前記捺染対象部およびその周辺に洗浄液を噴射して仕上げ洗浄することを特徴とする捺染部の超音波除去方法。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

この発明は布地等に捺染形成された捺染部を抜染する捺染部の超音波除去方法に関する。

<従来の技術>

従来、染料または顔料を用いて捺染により染出された家紋等の模様を抜染して替え紋したり、色無地、江戸小紋などの和服に、染料または顔料を用いて家紋等の模様を捺染により染出して、それらの和服をお茶、お花の会や入学式等の礼装用の着物として形成し、礼装用途が終ると捺染された模様を抜染して、従来の色無地、江戸小紋などの和服として復元させることが行われている。

<発明が解決しようとする課題>

この抜染は、一般には、捺染模様を形成する染料または顔料を溶解させる抜染液を容器に満たし、その容器内に捺染対象部を浸して、つまみ洗いするようにして抜染が行われていた。しかし、このような方法では、布地が擦れて傷み易く、また、1度つまみ洗いで完全には抜染を行うことが出来ず、抜染液への浸漬とつまみ洗いとを何度も繰返す必要があり、抜染に要する時間が長くなる

という問題があつた。

この発明は、従来技術の有するこのような問題点にかんがみ込まれたものであり、その目的とするところは、布地を痛めることなく、迅速に抜染を行うことができる抜染部の超音波除去方法を提供しようとするものである。

<課題を解決するための手段>

この発明は上記目的を達成するためになされたものであり、真空ポンプに連通した吸気管の開口部に被加工物を載置する多孔質部材からなる支承板を装設し、上記被加工物の抜染対象部を上記支承板上に載置し、上記抜染対象部に超音波霧化装置により染液を噴霧しながら超音波を照射付与して、上記抜染対象部を溶解、分解し、溶解、分解した上記抜染対象部の染料または顔料と上記抜染液とからなる廃液を上記支承板を介して真空吸引して排出し、上記抜染対象部およびその周辺に洗浄液を噴射して仕上げ洗浄する抜染部の超音波除去方法である。

<実施例>

19を介して抜染液容器20に接続されている。そして、ホーン18より28.5KHZの超音波を放射するとともに、抜染液容器20より染液形成された模様等である抜染対象部31を溶解可能な抜染液21を供給されて、ホーン18先端部より噴霧するように構成されている。

洗浄液噴射装置22は、洗浄液26の噴射ポンプを内装し、ホース24を介して洗浄液容器25に接続されている。そして、汚物を洗浄可能な洗浄液26を供給されてノズル23より噴射するように構成されている。

なお、12は真空ポンプ10の吐出口に接続された吐出管であり、吐出管12は廃液を回収する回収器13に接続され、更に、消音器14を介して大気と連通されている。また、フィルタ7は交換可能に装備されている。

次に、上記の装置を用いた抜染部の超音波除去方法を説明する。

まず、抜染処理台1上に被加工物30を載置し真空ポンプ10を作動させる。このとき、被加

以下この発明の一実施例を図面に基づいて説明する。

第1図は本発明の抜染部の超音波除去方法に用いられる装置の概要を示す正断面図であり、支承板3および真空ポンプ10を装設した抜染処理台1と、超音波霧化装置17と、洗浄液噴射装置22等により構成されている。

抜染処理台1は、その天板に孔2が穿設されており、孔2の上部には、中央部に100メッシュ程度の金属網を張設した支承板3が装設されている。支承板3の下方には孔2を介して連結筒5が配設されており、連結筒5はフィルタ7を介して吸気管8に連通されている。この吸気管8は、管路の途中に開度を調整可能なバルブ9が設けられており、一端が真空ポンプ10の吸込口に連通されている。

超音波霧化装置17は、超音波振動子を内装し、実施例では発振周波数28.5KHZ、高周波出力45Wの超音波を発生する超音波発振器15にケーブル16を介して接続されるとともに、給液ホース

工物30の汚れ防止と緩衝用のために、支承板30上に薄手の布地(図示せず)をおき、染液形成された面を下面側にして抜染対象部31をその上に載置する。

次いで、バルブ9の開度を調整して真空ポンプ10の吸引力を調整し、その吸気圧により抜染対象部31を支承板3の上面に、上記布地を介して密着させる。

続いて、超音波発振器15を作動させ、超音波霧化装置17のホーン18より霧化された抜染液21が噴射される。そして、その抜染液21を抜染対象部31の裏側より所要量噴射しながら、ホーン18先端部を抜染対象部31の裏側に軽く当てて、超音波を抜染対象部31およびそれに付着した抜染液31に伝搬させる。

これにより、抜染対象部31に染液されていた染料または顔料は、抜染液21に溶解されるとともに超音波により被加工物30から分離され、それらの相乗効果により抜染が迅速に行なわれる。

この溶解、分離された染料または顔料と抜染液

PAT-NO: JP401213458A
DOCUMENT- JP 01213458 A
IDENTIFIER:
TITLE: METHOD FOR REMOVING PRINTED PART WITH ULTRASONIC
WAVE
PUBN-DATE: August 28, 1989

INVENTOR-INFORMATION:

NAME COUNTRY
HIBI, MASATAKA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
KK TACHIICHI N/A

APPL-NO: JP63038403
APPL-DATE: February 19, 1988

INT-CL (IPC): D06B013/00

US-CL-CURRENT: 68/3SS

ABSTRACT:

PURPOSE: To rapidly carry out discharge without damaging a piece of cloth, by spraying a discharging solution on an object part for discharging placed on a supporting plate and separating the dye or pigment from a material to be processed with ultrasonic waves while dissolving the dye or pigment in the discharge part.

CONSTITUTION: A material 30 to be processed is placed on a discharge treating table 1 and a vacuum pump 10 is operated to closely adhere an object part for discharge to the top surface of a supporting plate 3. An atomized discharging solution 21 is sprayed from a horn 18 of an ultrasonic atomizer 17. A dye or pigment printed on the object part 31 for discharge is dissolved in the discharge solution 21, separated from the material 30 to be processed with ultrasonic waves and sucked into a connecting cylinder 5. A cleaning solution atomizer 22 is then operated to spray a washing solution 26 from a nozzle 23 to wash away the residual discharging solution 21 sticking to the material 30 to be processed and carry out finish washing.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO&Japio